



2024.3.13

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

うれしい、悲しい3月に

3月、うれしい悲しい季節がやってきました。うれしいのは昨年4月から始まったこの1年で、園児一人ひとりが成長し、新しい学年に向かって期待に胸ふくらませ本当にうれしい笑顔になっているからです。特に年長さんたちは、この瀬戸ひなご幼稚園を卒園し、それぞれの小学校に入学します。新しいランドセル・文房具・机等のピカピカの用具を前に嬉しそうにしている子どもたちの顔が浮かんできます。

悲しいのは子どもたちとの別れです。幼稚園の中で一緒に遊び、笑い、その成長を見てきました。出来なかったことが出来るようになった、お友だちと力を合わせて何かを作ることが出来た、様々な活動を通して成長のお手伝いをしてきた子どもたちが、巣立っていく。年長組担任だけでなく、年中・年少・2~3歳児、どの学年の担任も同じ思いでしょう。悲しいけれど嬉しい涙です。

先日、ある会に講師として参加した時に、全くの偶然で卒園児と再会しました。彼女の話によると、当時の担任の先生にあこがれて、自分も幼稚園教諭となったそうです。結婚と同時に退職、今は高齢者施設を立ち上げて、仕事を始めるそうです。何十年も前の悲しい別れの後の嬉しい再会でした。困っている人の為に仕事を始めた彼女の笑顔はキラキラ輝いていました。さらに続編があります。幼稚園の先生を退職した彼女は、その後看護師の資格を取ったそうです。そして10日に行われた名古屋ウィメンズマラソンで、33キロ地点で負傷した方々に傷の手当てをアドバイスし、治療薬等を渡すボランティアに参加すると言っていました。たくましく成長した卒園児に感動し、心の中で拍手を送りました。

今まで巣立っていった多くのお子さんたちが成長し、社会の中で活躍されていると思うと、子どもたちの成長のお手伝いができるこの仕事に改めて誇りと喜びを感じます。この瀬戸ひなご幼稚園から子どもたちの成長を見守ることができることに感謝し、これからも頑張っていきたいと思えます。



素直に受ける

我が園では1学期と3学期に個人懇談会を行っています。1学期は保護者様とコミュニケーションを取ることで、これから1年よろしく願います、という意味。そして3学期は1年間お世話になりました、という感謝の気持ちを保護者様に伝えるという意味があります。保護者様と一緒に、お子様の成長を振り返ります。

保護者様とのお話の中には、良いことばかりではなく耳に痛いご意見をいただくこともあります。幼稚園全体のことだったり担任に対するご意見だったり色々あります。その時、園側としてはご指摘いただいたことに対して「ご指摘をありがとうございます。」と素直に受け止めます。園内のことは職員会議で検討課題とし、担任に対することは本人にきちんと受け止めることを伝えます。このような危険信号を知らないまま過ぎてしまうと、取り返しのつかないことになってしまいますので、教えていただいたことに感謝をし、自分を反省しましょうと伝えます。道はずれそうになった自分を、正しい軌道に戻してもらえたと謙虚に素直に受け止めることが大事です。

「先生」といっても完璧な人間ではありません。間違った時は「ありがとうございます」と素直に受け止め、自分を修正することが「先生」として成長していく重要な要素です。これからも何かお気づきになることがありましたら、遠慮なくご連絡をお願い致します。

その意味でも、こうして「めばえ」を書きながら、自分自身を反省し見つめてきた1年だったと思います。保護者の皆様には1年間お読みいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

